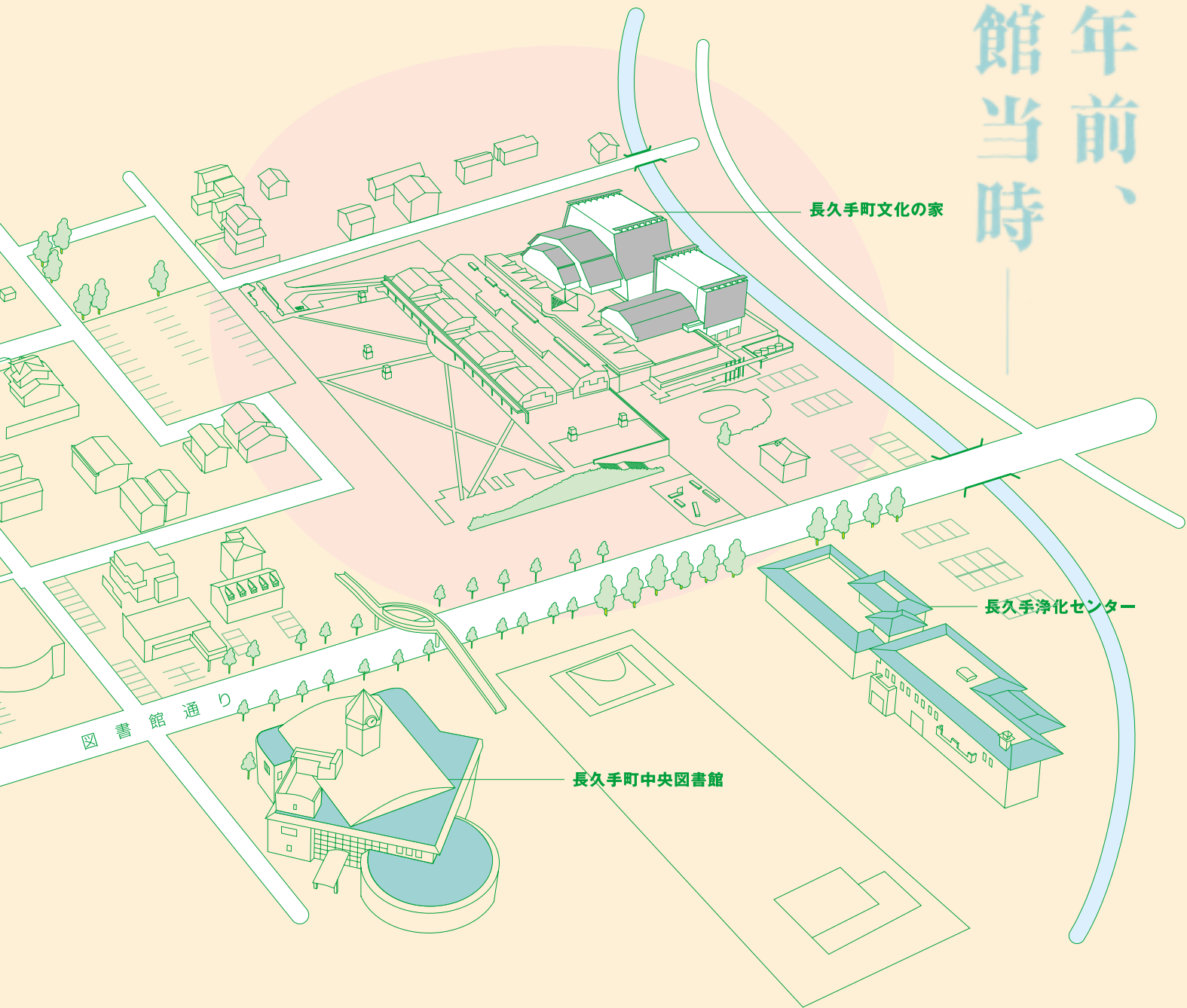


5年前、
開館当時



長久手町文化の家

長久手浄化センター

長久手町中央図書館

文化
の家

NAGAKUTE
Cultural
Center
Informational
magazine

SPRING 2003
vol. 17

CONTENTS

STRUCTURE / 施設点描 2

内部と外部をやさしくつなぐコロネード

IMPRESSION 3

「たくさんの人に音楽の素晴らしさを伝えたい」
今村三明 / ティンパニ奏者

特集 4

鑑賞から体験へ ~ 文化の家の音楽活動 ~

TOPICS 8

INFORMATION 10

文化の家美術作品 裏表紙



この情報誌では文化の家が行う事業や文化の家で展開されるさまざまな活動を紹介するとともに町の芸術文化情報をお知らせします。

STRUCTURE

施設点描

内部と外部をやさしくつなぐコロネード



文化の家のアトリビングと屋外駐車場の間には、「コロネード」と呼ばれる庇屋根の外部廊下があります。コロネードとは回廊、列柱廊のことで、中世の邸宅や宮殿では中庭を囲んだり、建物の前庭にエントランスへのアプローチとして設けたりしました。建物の導線でありながら、内部と外部をやさしくつなぐ緩衝地帯であり、夏は直射光が部屋に入るのを防ぎ、冬は暖かい日差しを楽しむ空間ともなっています。

IMPRESSION

「たくさんの人に音楽の素晴らしさを伝えたい」

今村三明 / ティンパニ奏者

1月18日(土)、19日(日)風のホールにおいて『長久手町文化の家フォーラム《響き》再発見!』の公演を行いました。《響き》の面白さや不思議さを、実体験を通し、楽しくわかりやすく紹介する体験コンサートの案内役を務めた今村三明さんにインタビューしました。

今村三明：プロフィール

1946年東京生まれ。1968年東京芸術大学器楽科打楽器専攻卒業。卒業と同時に打楽器兼任のティンパニ奏者としてNHK交響楽団に入団。ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮 ベルリン・フィル、リッカルド・ムーティ指揮 ミラノ・スカラ座、ジェフリー・テイト指揮 イギリス室内管弦楽団等、海外のオーケストラに多数出演。ソロティンパニ奏者として国内の主要オーケストラに出演。現在、愛知県立芸術大学教授、くらしき作陽大学講師、山形大学大学院講師、NHK交響楽団団友。



ティンパニで響きの違いを表現する今村三明さん

公演を終えた感想はいかがですか？

「完売御礼」の札が出るほど、満員のお客様に喜んでいただいたことが一番うれしいです。お客様と一緒に、私の話や演奏に反応し参加し、ステージと客席が一体感に包まれたのが何よりの成果です。

文化の家の風のホールは、適度の響きがあり、残響とナマの音とがうまく溶け込む室内楽に適した良いホールですね。今回のような体験コンサートで、多くの方に音楽の素晴らしさを知ってもらえるのはいい企画だと思います。今後、クラシックに限らず、ジャズ、ポピュラーなども、どんどん取り入れられたら楽しいと思います。音楽にジャンルの壁はありませんから…。

音楽活動をしてきて、一番印象に残っていることは何ですか？

N響時代、年間100回以上の公演がありました。そのひとつひとつが全て印象に残っていますが、カラヤン、ヴァント、マタチッチ、サヴァリッシュ、メニューイン、アシュケナーズなどを始め、素晴らしい指揮者やソリストと一緒に演奏できたことが一番印象に残っています。

海外での演奏会をたくさんしてきましたが、心のこもった演奏をすれば、日本人が外国人作曲家の曲を外国で作られた楽器で演奏しても、心の底から受け入れてくれ、音楽に国籍、国境というものはないと実感しました。

今後の活動についてお聞かせください。

私にとって音楽は、切っても切り離せないものです。体の一部でもあり、永遠の追求です。二度と同じ演奏はできないから、その瞬間を鑑賞者の方と共有できること、人間が人間に直接語りかけるところが魅力だと思います。

音楽というものは、到達点はありません。常に、上を目指して勉強です。そして、今までの全ての経験、体験を含め、音楽の基礎的なことから技術的なことを後進に伝えていきたいと思っています。



プラハ弦楽四重奏団来日ラストコンサート

II 地域の芸術家の活躍

・地元新進アーティスト・プロデュースによる演奏会

文化の家では、毎年、『羽ばたきコンサート「新しい波」シリーズ』と題し、地元の新進アーティスト自らがプロデュースを行う演奏会を行っています。長久手町は、町内に愛知県立芸術大学があり、数多くの芸術家が在住している全国でも稀な地域です。羽ばたきコンサートでは、この地域の財産ともいえる若手音楽家が出演するだけでなく、演奏会を自らの手で企画、制作しています。

羽ばたきコンサートの一例をあげると、愛知県立芸術大学卒業生5人による、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、テノール、ピアノの「サロン音楽の愉しみ」では、ベートーヴェンやシューベルトの歌曲、室内楽を取り上げたり、同大学卒業生の若手作曲家4人で結成したCHAMによる「～音で遊ぶ～」では、新作と日本の名歌の編曲発表会を行ったりしました。若い音楽家たちは、マネージメントにも取り組み、観客のニーズを考慮したプログラムや宣伝を行っていました。

・愛知県立芸術大学との提携公演

文化の家では、独自の視点から企画した自主事業を行っていますが、限られた予算の中で優れた公演をより多く提供するために提携事業を行っています。愛知県立芸術大学とは「ウィンドオーケストラ定期演奏会」「室内楽の愉しみ」など年4回程度の提携公演を行っています。町内にある大学との提携は、未来をになう芸術家たちに実践の場を提供するとともに、町の貴重な財産として、地域への還元を願ってのことです。



演奏者の横で作品について語る作曲家たち(左)



愛知県立芸術大学ウィンドオーケストラ演奏会

特集
Special edition

鑑賞から体験へ ～文化の家の音楽活動～

前回の16号の特集では、長久手町文化の家を拠点に繰り広げられるオペラを取り上げました。今回は、文化の家の自主事業におけるオペラ以外の音楽活動を紹介します。

I 鑑賞～入口は広く、内容は深く～

文化の家では、自主事業として年間約35本の舞台公演を行っています。そのうち約半数は音楽系の公演です。音楽系の公演ではクラシック、民族音楽、ポピュラー音楽など幅広いジャンルの公演を行っています。

・質の高い招聘公演 ～世界レベルに触れる～

文化の家では毎年、海外から優れたアーティストを招聘しており、これまでに、ベルリンフィルの12人のチェリストたち、フルート奏者のエマニュエル・パユ、ア・カベラグループのタリス・スコラズ、プラハ弦楽四重奏団、昨年は、中世音楽とダンスのザ・ハーブ・コンサート、室内楽のザ・チェコ・トリオなど世界の一流の演奏家による質の高い演奏会を行ってきました。

これらの事業は、長久手町が世界レベルのアーティストの鑑賞、交流を目的とする、音楽事業の柱となるものですが、公開レッスン、ワークショップ、講座といった関連企画を絡めることにより、地域のより多くの人々に親んでもらえる足がかりをつくっています。

・民族音楽 ～異文化を身近に～

文化の家では、音楽を通し世界の文化や歴史に触れようと、これまでに、中国琵琶、ポリビアのフォルクローレ、ジャワ島伝統音楽のガムラン、モンゴルの馬頭琴、日本の津軽三味線、沖縄三味線、平家琵琶といった日本、世界の民族音楽の公演を行ってきました。

これらの公演は、一流のアーティストによる演奏ということだけでなく、それぞれの楽器紹介やその国の生活文化を、出演者自らのトークで紹介をしています。どの公演も客席と舞台が身近に感じられ、異文化に自然に打ち解けられると好評を博しています。



音楽とダンスの即興公演ザ・ハーブ・コンサート



5000年の歴史の中国琵琶を演奏する宗婷

III ホールから出て～日常との接触～



知っている曲がいっぱい、音楽デリバリー

・感動の贈り物 音楽デリバリー

音楽デリバリーは、さまざまな理由でホールコンサートに参加できない人を始め、多くの方に音楽に親んでもらうために、毎月1回創造スタッフが福祉教育施設などを訪れ、ミニコンサートを行い、楽しい音楽をお届けする活動です。

演奏等をしている創造スタッフとは、文化の家が年間契約している、優れた芸術性、高い専門知識を持った地域の若手芸術家たちで、音楽デリバリーのほか、アトリビング講座の指導、公演の企画やサポートを行っています。

音楽デリバリーでは、創造スタッフが、対象者にあわせた曲目、お話などプログラムを工夫しています。子どもたちの好奇心に満ちた顔や踊りだす体、涙をながして喜んでくれるお年寄りの姿など、毎回、新しい出会いと感動を享受しています。

・誰でも気楽に ガレリアコンサート

身近な場所で気軽に音楽を楽しんでもらおうと、年4回、文化の家のガレリアというオープンスペースで、無料のミニコンサートを行っています。これは、文化の家の創造スタッフの提案により始まったコンサートで、創造スタッフを始め、公募で選ばれた地域の音楽家たちが演奏しています。クラシックからポピュラー音楽までジャンルは幅広く、弦楽器や合唱など生の演奏が石造りのスペースに美しく響きわたっています。

気軽に楽しめることから、毎回楽しみに訪れる家族連れ、偶然立ち寄った人たちなど観客層はさまざまで、ガレリアコンサートは、文化の家に親しく足を運んでいただくきっかけ作りになってきています。

演奏後は、情報ラウンジでインターネットや芸術文化雑誌を閲覧したり、くつろぎながら交流を深める姿も見られ、文化の家が、地域住民の我が家として育てているのを感じています。



女声合唱団コロ・リベルタによるガレリアコンサート

IV 体験～自らも演奏家に～



SOUL OF VOICE ゴスペル in NAGAKUTEのコンサートに出演するゴスペル講座受講生



ザ・ハーブ・コンサートによるバロックダンスの公開レッスン



熱心な指導を受ける中学生・高校生(吹奏楽クリニック)



長久手町合唱団「ニューセンチュリーコーラスNagakute」

・公演に関連した講座、ワークショップ、公開レッスン

文化の家では、演奏会への関心と理解をより深めるために、演奏会の関連企画として参加型のワークショップや公開レッスン、講座を積極的に行っています。

14年7月に行った「SOUL OF VOICE ゴスペル in NAGAKUTE」のコンサートでは、これに先立つ4月にアノインテッド・マスキワイヤーの河原美由紀さんを講師に迎え、アトリビング講座「ゴスペル」を開講しました。演奏会当日には、受講生100人がコンサートの舞台上がり、プロのアーティストたちと共演しました。

10月に公演した中世音楽とダンスの「スペイン慕情/ザ・ハーブ・コンサート」では、演奏会の前に、希望者が舞台上がりメンバーからバロックダンスのレッスンを受けるワークショップや、バロック美術の講演を行いました。

この2月に公演したピアノトリオコンサート「ザ・チェコ・トリオ」では、出演者によるチェコの音楽と歴史について1時間ほどのトーク、また一般公募による地元の若い音楽家2団体の公開レッスンを行いました。

・地元中学生、高校生の吹奏楽クリニック

文化の家では、愛知県立芸術大学の管・打楽器専攻の先生と学生たちが、地元の中学生、高校生に吹奏楽の指導を行う「吹奏楽クリニック」を毎年行っています。クリニックは楽器の点検から、パートごとに分かれての指導が中心ですが、中学生、高校生たちは、技術面だけでなく音楽に対する姿勢も学んでいました。クリニック指導をする同大学の学生が行うウィンドオーケストラ定期演奏会では、この中学生、高校生たちがホールスタッフとしてお礼の気持ちを込めて手伝いをするなど、地域に根付いた音楽の交流の輪が広がっています。

・成長する町合唱団

長久手町合唱団「ニューセンチュリーコーラス Nagakute」は、文化の家の開館に合わせ、地域住民が集まり結成した合唱団です。年齢、合唱経験歴のさまざまなメンバーが毎週金曜日の夜、文化の家 音楽室で練習を行っています。

同合唱団は、これまでに、日本の歌、宗教曲、オペラなどさまざまなジャンルの歌に取り組んできました。故・中田喜直氏作曲の日本の心の歌に取り組んだ時には、中田氏から曲に込められた思いを直接聞く機会を持ち、ア・カペラのタリス・スコラーズ招聘の際には、ピーター・フィリップ氏による公開レッスンを受けました。また、オペラレクチャー・コンサート「カヴァレリア・ルスティカーナ」では、原語のイタリア語に挑戦し、第5回定期演奏会では、オーケストラをバックに歌いました。合唱団は、大きな目標に向かって努力しており、いつの日か、町劇団「座 NAGAKUTE」やオーケストラとのコラボレーションができればとの夢も描いています。

・楽しく学ぶアトリビング講座

文化の家には、音楽室、美術室、舞踊室、食文化室などさまざまな特徴を持つ文化創造空間アトリビング諸施設があります。そこでは、芸術、文化を中心に、年間、または半年間の単位で30以上の講座を開講しています。

音楽系の講座では、シニアピアノ、音楽入門、バイオリンなどがあります。「シニアピアノ」では初心者向けと経験者向け、「バイオリン」では大人と子ども向けの講座を分けるなどグレード別のコースも設けています。

受講生の中には、文化の家自主事業の前田憲男、佐藤允彦、羽田健太郎によるトリプル・ピアノの公演を聴いたのがきっかけで、ピアノ講座を受講した人があるなど、鑑賞から学習へとつながっています。講座終了の年度末には一人ひとりが舞台上立ち、自らの発表会を行い、更なる成長を目指しています。



練習成果を披露するアトリビング講座発表会

合奏を楽しむバイオリン講座

・講座卒業生たちの自主活動

アトリビング講座の受講生の中には、講座終了後、自ら積極的にサークルを立ち上げ、文化の家を拠点に活動している人たちがいます。

一例をあげると、シニアピアノ講座受講生5人が4年前に「ピアノサークル」を立ち上げ、主に水曜日の午後、音楽室で練習をしています。お互いアドバイスしたり、連弾をしたり、時には先生に指導を受けながらコンサート開催を目標にがんばっています。

そのほか昨年度のゴスペル講座受講生が、「A・バウトシンガーズ」を立ち上げるなど、いくつかのサークルが誕生しています。

「シニアピアノ」講座を担当する 創造スタッフの小野隆司さんのコメント

私は、子どもの頃音楽に触れたときの感動が忘れられず、音楽の喜びを伝えたくて、講座、演奏会を始めさまざまな音楽活動をしています。音楽は言葉ではなく、音を通じての人のコミュニケーションで、人に伝えて、完成するものだと思います。文化の家の講座は、年度末の3月に発表会が設けられている点が素晴らしいと思います。練習の大きな励みとなり、舞台上立つ緊張感、達成感に更なるレベルアップにつながっています。

今後は、ピアノの連弾や合唱、バイオリン、バレエ講座受講生との共演など、アトリビング講座ならではの広がりを持っていきたいと思っています。

V 事業倶楽部事業～事業企画を支援～

事業倶楽部事業は、地域住民自らが芸術文化鑑賞事業を企画、立案、実施をすることを文化の家が支援する活動です。専門家や、スタッフがアドバイスをしながら事業の実現の機会を提供しています。

これまでに、音楽関連では、ウーヴェ・コミシュケのトランペットリサイタルなどの公演を行いました。



事業倶楽部事業ウーヴェ・コミシュケ スーパートランペットリサイタル

VI 今後の取り組み

文化の家は、平成15年度には、開館5周年を迎えます。年間約35本の自主事業舞台公演を行い、美術企画展なども含めこれまでに400本以上の自主事業を行ってきました。この年間本数は、平均すると毎週、何らかの自主事業を行っていることとなります。

高度な芸術的価値の高い公演からポピュラー音楽までの鑑賞事業、鑑賞も兼ねた地元の若いアーティストの育成と支援、住民参加型のワークショップや公開レッスン、講座など、文化の家は多角的な視点からプログラムを展開してきました。

また、アトリビング講座や町合唱団など住民自らの学習、発表

活動、サークル活動などの自主創造活動は、年ごとに盛んになり、質的な向上も見られます。

今後は、こうした多角的な視野を堅持しながら、2年後に開催される2005年日本国際博覧会(愛・地球博)を視野に入れ、近隣の自治体との連携公演や住民参加型のプログラムの充実を図っていきます。また、学校週5日制を踏まえ、子どもたちのための企画、親子ふれあいの公演の充実を図って活動の対象を等しく全世代に広げていきたいと考えています。

ユニークな企画

長久手町文化の家フォーラム 響き 再発見!

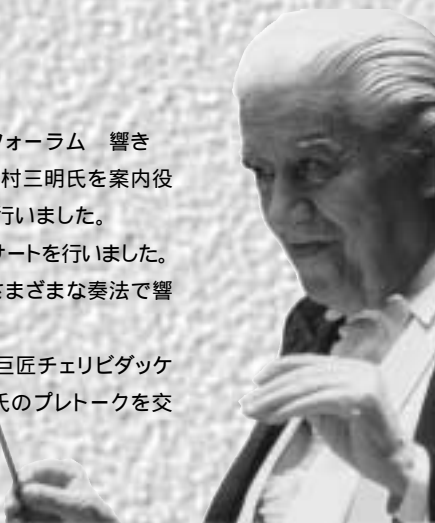
長久手町文化の家フォーラム《響き》再発見!
体験コンサート

1月18日(土)、風のホールで、『長久手町文化の家フォーラム 響き 再発見!』と題し、元NHK交響楽団のティンパニ奏者の今村三明氏を案内役に弦楽器と打楽器の響きの魅力を体験するコンサートを行いました。

第1部は打楽器であるティンパニの響きを体験するコンサートを行いました。

第2部では弦楽器のバイオリンやチェロなどを使い、さまざまな奏法で響きの違いを聞き比べました。

また19日(日)には古今で最も《響き》にこだわった巨匠チェリビダッケのドキュメンタリー映画を上映。音楽評論家の横溝亮一氏のプレトークを交えて行いました。



巨匠チェリビダッケ

文化の家フォーラム《響き》再発見!の企画意図

「音楽家にとって《響き》は命です。」と、今村三明氏は体験コンサートの冒頭で言われました。

演奏会の本番のみを聴くお客さんにとって、《響き》は完成品を意味するものでありましょ。しかし、演奏家が出す一音一音の《響き》は、一朝一夕では成し得ない努力の結晶です。このフォーラムはお客さんがその演奏家の「思い入れ」を知ることで、音楽の「聴きどころ」に触れていただくという試みです。例えばティンパニの一打は一見、誰にでもできそうですが、強弱はもちろんのこと、パチの種類、叩く場所、会場の響き方に至るまで深い解釈があって行われます。また、弦楽器のボーイング(弓の動き)は、弦楽器奏者にとっては一生の課題といわれ、弓の上げ下げは音楽のニュアンスにそって全て決めら

れているのです。そこでパチをかえたり、ボーイングを決めないでやってみたり、という実験を行いその意味を浮かび上がらせてみました。

演奏家の方々には少々無理をお願いしましたが、結果としてお客さんは今まで思いもなかった《響き》の面白さを知ることになったと思われま。これは音楽を聴く上で、大きな財産です。

演奏会という場所は《響き》の宝庫であり、《響き》に耳をすませることで、音楽が楽しくなる、そんなキッカケをこのフォーラムでつかんでいただきたいと企画しました。

今回の体験コンサートでは、地元の方々や笑い声や、どよめきが絶えないほどの楽しいコンサートができたことに大きな喜びを感じています。

重厚な響き ザ・チェコ・トリオ

2月27日(木)森のホールにて、ザ・チェコ・トリオの公演を行いました。110年の歴史を誇るチェコの名門ピアノトリオ(ピアノ、ヴァイオリン、



ザ・チェコ・トリオの公演

チェロ)が歴史を重ねた重厚な響きを奏でました。

ザ・チェコ・トリオは、幾つものアンサンブルがその名を代々受け継ぐピアノトリオです。現在のメンバーは、ブラハ音楽院・国立芸術アカデミーの教授陣たちで、演奏家であり、教育者でもあります。

演奏の前には、チェコの音楽と歴史についてプレトークがありました。チェコは、ドイツやロシアなどいつもどこかの国の支配下にあり、各国の影響を受け続けてきましたが、常に根底にはチェコ独自の文化が受け継がれており、今後、ヨーロッパが経済的に統合されてもチェコ独自の文化は保持していきたいという熱い思いが出演者から語られました。

関連企画として、23日(日)に、ザ・チェコ・トリオ特別公開レッスンと模範演奏を行いました。

公開レッスンでは、個々の技術指導だけでなく、互いの音を聴き、ソロを引き立てるトリオとしての演奏技術を分かりやすく指導しました。その熱心なアドバイスを受けた受講者たちの演奏がみるみる変わるのがわかり、観客にとっても、聴きどころを知ることができる内容でした。受講者からは、「楽譜の読み方が忠実で、新しい発見ばかりの素晴らしいレッスンに感動しました。」との声がかれました。

長久手演劇王国vol 5

日本劇作家協会東海支部プロデュース

『劇王』第1回Jr ライト級チャンピオン決定戦

1月31日(金)、2月1日(土)、2日(日)の3日間、風のホールにて、長久手演劇王国vol.5 日本劇作家協会東海支部プロデュース『劇王』第1回Jr ライト級チャンピオン決定戦の公演を行いました。

この企画は、劇作家が短編戯曲を上演するだけでなく、演劇評論家(扇田昭彦氏、小堀純氏、安住恭子氏)による劇評や相互批判により刺激し合い、質の向上を図ると同時に、観客の人にも、観るだけでなく投票により参加をしてもらおう試みとして開催しました。

10人の劇作家が、日本劇作家協会東海支部事務局長の佃典彦さん手作りのチャンピオンベルトを目指し、新作の戯曲を次々と上演しました。初代チャンピオンはアクションクラブの杉本明朗さんでした。来年はチャンピオンを巡り、さらなる攻防が見られることでしょう。

会場には、文化の家アトリビング講座戯曲セミナー受講生や町劇団の団員を始め、戯曲に高い関心を持つ人たちが多く来場しており、公演後のホールホワイエ内外は、上演作品についての論議で盛り上がっていました。



劇王の公演

長久手町文化の家絵画コンクール受賞・入選作品展

1月24日(金)~2月2日(日)、展示室において、絵画コンクール(高校生/一般の部)受賞・入選作品展を行いました。5回目となる今回の絵画コンクールのテーマは、「身近にある自然」で、油絵、水彩画など67点の応募がありました。1月26日には、表彰式を行い、大賞1名、金賞2名、銀賞5名、佳作10名に賞状と副賞が渡されました。

大賞には、大きな壺とサボテンの鉢が描かれた、長久手町在住の山田恭一さん(50)の作品「庭の風景」が受賞しました。山田さんは、絵画を始めて5年。知り合いの画家に絵を勧められ習い始めました。花を交配させ、種から育てるほどのサボテン愛好家で、毎日眺めている庭の風景を描きましたが、まさか大賞がもらえるとは思っていませんでした。

表彰式の後には、愛知県立芸術大学教授久保田裕氏を始めとする審査員と受賞者との意見交換の時間が設けられ、審査員からは「身近な空間を自分の中に感じていることが伝わってくる。」との講評がありました。

金賞には、シャープな電柱やフェンスと、柔らかなフォルムと色使いで桜が描かれた作品、名古屋在住の海老原澄子さん(83)の「櫻の道」が受賞しました。

審査員からは、「83歳の作品とは想像もできない、とても若々しい絵です。いつも通っている道の雰囲気がよく伝わってくる作品です。」と講評がありました。

作品「乱舞」で金賞を受賞した、山内喬博さん(19)は、絵を勉強している学生さんで、「もっと素晴らしい絵を描きたい。」と意欲を燃やし、審査員のアドバイスを熱心に聞いていました。

審査委員長(川上實文化の家館長)からは、総評として「年々洗練され、透明度が高くなってきている。みな個性的で、同じような作品はほとんどなく、対象と深く出会って語りかけている作品が多い。」との講評がありました。今回のコンクールでは、「選外にするのは、惜しい作品が多い」という審査員の意向で、入選として12名の作品が追加選出されました。



絵画コンクール表彰式

第4回長久手町文化の家フェスティバル

12月中旬に、第4回長久手町文化の家フェスティバルを行いました。

同フェスティバルは、文化の家を利用し芸術文化活動をしている人たちが、練習の成果を披露するお祭りです。

第4回目の今回は、28団体、総勢480名が参加し、森のホールでは、バレエ、日本舞踊などの発表を、風のホールでは、吹奏楽、バンドなどの演奏を、展示室では、絵画、生け花を、また、美術室では染色などの作品を披露しました。

参加者からは、「フェスティバルへの参加は、普段の稽古の励みとなり、参加者同士との交流も出来て楽しいです。」「また、来年も参加したいです。」といった声がかれました。今回からは、参加者が舞台部門の司会進行を担当するなどフェスティバルへの意気込みも一層高まってきました。



小さな子どもたちも参加した文化の家フェスティバル

公演 Pick Up

羽ばたきコンサート

新しい波・2003～北欧からの便り～

【と き】 5月25(日)午後2時開演

【と ころ】 文化の家 風のホール

【入場料】 前売り一般1,000円 フレンズ会員900円
当日1,000円(全自由席)

【対 象】 小学生以上

【出 演】 バイオリン/梅村幸江、ピアノ/水月恵美子

【内 容】 春に恒例の羽ばたきコンサートは、地元の若い音楽家による演奏会です。今回は、バイオリニストの梅村幸江さんが、北欧各国の音楽を紹介しながら、5年間のフィンランド滞在中に見て感じた「北欧の息吹」をお届けします。「北欧」はヨーロッパの5つの国、デンマーク、フィンランド、ノルウェー、スウェーデン、アイスランドをさしますが、それぞれの国には異なった歴史や民族性があり、音楽もさまざまです。新しい波『2003～北欧からの便り～』では、デンマークの片田舎で民謡にあわせて踊る人々や、スウェーデンの白樺の森、湖、フィヨルドの大自然の風景が浮かんでくるような透明感あふれる音楽が届けられます。

また、関連企画として、4月25日(金)食文化室にて梅村幸江さんによるフィンランド滞在中の楽しい話と生活感あふれる素朴な家庭料理を作るアトリビング講座「フィンランド家庭料理」を行います。どのような気候、風土、歴史の中、フィンランドの人々はどんな料理を食べ、この音楽が育まれたかを知ると、北欧音楽への興味がますます深まります。



梅村幸江(バイオリン)



水月恵美子(ピアノ)

チケット購入方法

公演のチケットは、文化の家、アピタ長久手店Nピアサービスコーナー、チケットぴあで扱っています。文化の家では電話予約もできます。代金は、1週間以内にお支払いいただくか、現金書留で送金してください。

文化の家チケット専用電話 0561 61 2888

長久手町サービスコーナー(Nピア) 0561 63 9200

(アピタ長久手店2階) (窓口販売のみ)

チケットぴあ 052 320 9999

各事業の詳しいことや、こちらに掲載した以外の事業については、公演ガイドをご覧ください。文化の家にお問い合わせください。



町劇団公演「ある夜の、デンエモン」



オペラレクチャーコンサート出演の町合唱団

町劇団「座 NAGAKUTE」
町合唱団「ニューセンチュリーコーラスNagakute」
団員募集

文化の家を拠点に活動し、毎年定期公演を行っています。
町劇団「座 NAGAKUTE」は、団員が戯曲を書き下ろし、衣装や道具作りにも挑戦しています。
町合唱団「ニューセンチュリーコーラスNagakute」は、オペラ原語に取り組み、オペラレクチャー・コンサートに出演したり、地元の福祉施設に慰問したりしています。

劇団員、合唱団員を次のとおり募集します。

- 町劇団「座 NAGAKUTE」
【指導者】 劇作家・演出家 佃典彦
【練習日時】 毎週金曜日午後7時から同9時30分まで
【練習場所】 文化の家 舞踊室
【応募資格】 満15歳以上の人(中学生は除く)で練習に積極的に参加できる人
- 町合唱団「ニューセンチュリーコーラスNagakute」
【指導者】 山田信芳
【練習日時】 毎週金曜日午後6時30分から同9時15分まで
【練習場所】 文化の家 音楽室
【応募資格】 満15歳以上の人(中学生は除く)で練習に積極的に参加できる人
- 【応募方法】 いずれも文化の家にある応募用紙に必要事項を記入のうえ、提出してください(要写真添付)。

男性の劇団員、合唱団員を急募します。

文化の家フレンズ会員募集



文化の家フレンズは公演鑑賞の自主組織です。

【特典】会員になると

1. 文化の家の自主事業公演チケットを割引(約10%割引)
2. 文化の家自主事業チケットの先行発売
3. 機関紙、情報誌、公演案内の郵送
4. フレンズ主催の文化事業、交流事業への参加などの特典があります。

フレンズは単なる鑑賞団体だけではなく、運営に興味のある人が中心となり自主的に「鑑賞・交流事業の企画、実施」「機関紙、公演カレンダーの発行」などもしています。また、「文化の家の自主公演においてホールスタッフとして、受付や会場案内などのサポート活動」もしています。

【会費・申込み】

個人…年間1,500円

法人・グループ…15,000円

文化の家事務室にて、住所、氏名、電話番号を記入の上、年会費を添えてお申し込みください。

郵便での振込み入会も受け付けております。詳しくは文化の家までお問合せください。



フレンズ企画事業 佐川満男とシャイな仲間たち公演



シアターマネージメント講座に参加するフレンズ会員

平成15年度第1期アトリビング講座スタート

アトリビング講座とは、文化の家の自主事業で、芸術・生活文化関連を中心に開講している講座です。短期間の講座も含め、30以上の講座があり、音楽室、美術室、舞踊室、食文化室などさまざまな特徴を持つ文化創造空間アトリビングで展開しています。自ら創造活動しようとする人たちをサポートし、受講者同士の交流を図っています。

4月から15年度の講座が始まり、年度の終わりには、文化の家のホールや展示室にて、練習の成果を披露する発表会もあります。



陶芸(美術室)



素敵なティータイム(食文化室)

15年度第1期アトリビング講座一覧

- 素敵なティータイム…お菓子作りと紅茶・ハーブ・中国茶のいれ方を学ぶ。
- リフォーム…着なくなった衣類等を服や小物に作り直す。
- シニアピアノ(初心者)…初心者が、やさしい曲を弾けるまで。
- シニアピアノ(経験者)…経験者が目標曲を弾けるまで。
- 音楽入門…楽譜の読み方から合唱まで。
- 織織り…ストールやコースターなどを織織りで制作。
- 絵画…油絵の入門。静物画、風景画など。
- バイオリン(入門)…バイオリンの扱い方から簡単な曲まで。
- バイオリン(合奏)…合奏の基礎を学ぶ。
- バイオリン(小学生)…基礎から簡単な合奏曲まで。
- 陶芸(中級)…陶芸で小物や人形作り。
- 陶芸(初級)…食器、人形を作る。電動ロクロも使用。
- 水彩(初級)…デッサンを中心に基本的なモチーフを描く。
- 水彩(中級)…経験者向け水彩画。パステルも取り入れる。
- 子ども美術…自由な美術。絵画。粘土工作。版画など。
- 写真…写真の撮り方からモノクロフィルムの現像まで。
- 家庭料理…旬の食材を使った料理。基礎から学ぶ。
- 戯曲セミナー…演劇の台本作り。

編集後記



去る1月、森のホールで行われたエリック・ベルショ「ピアノ・エレガンス」はタイトル通りの優雅で親しみに満ちた演奏会だった。このフランス人奏者は数々の国際コンクールで受賞を重ねた実力派のピアニストだが、この日の曲目は「太陽がいっぱい」やビートルズ・ドレーなど、懐かしい映画音楽やポップスが中心で、いわゆるクラシックはショパンの聴きなれた小曲一つだけだった。

終演後のベルショさんは、「皆さんが『美しい』と思える曲だけで、心に残るコンサートをしたかった。」と語り、サイン会では長蛇の列を前にしながら一人ひとりのサインをし終えるたびにペンを左手に持ち替え、にこやかに握手を交わしていた。

最近では第一線のオペラ歌手も民謡やポップスを歌い、本格的なオペラ公演にプレトークの時間が設けられことも珍しくなくなった。芸術は専門性を究めていくなかで一般の理解から遠のいていく、という定めにあるが、近頃はさまざまな形で鑑賞者に立ち返る努力がなされるようになった。文化の家が力を入れている関連事業としての講座やトーク、フォーラムやワークショップはこうした趣旨によるものであり、これからはベルショさんの握手に習って、芸術をより身近なもの、より深いところで自分のものにしていただく工夫を重ねたいと思う。

文化の家館長 川上 實



文化の家美術作品

題名 「球形の地平」
 作者 望月菊磨
 1945年福岡県生まれ
 東京芸術大学美術学部研究科修了

寸法 30(幅)×30(奥)×30(高さ)cm

展示場所 文化の家2階アートコリドール

コメント 少しねじれた四角い塔のような形。そばにある樹のような形がその大きさをイメージさせ、この球形の円盤上に入れたらどんな世界が広がるのだろう。

文化 の 家

長久手町文化の家 情報誌

発行/長久手町
 編集/長久手町文化の家

お問合せ

長久手町文化の家

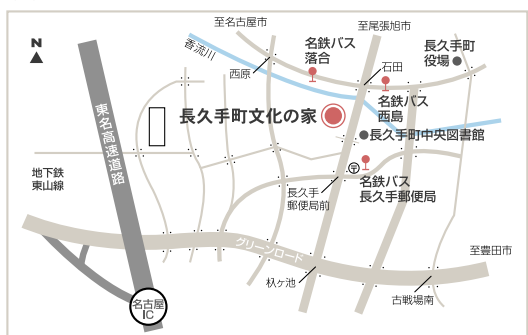
〒480-1131
 愛知県豊知郡長久手町大字長湫字野田農94番地1
 tel.0561-61-3411 fax.0561-61-2510
 チケット専用/tel.0561-61-2888
<http://www.bunka.nagakute.aichi.jp>

- 事業、舞台技術に関すること・・・事業係
- 施設利用、フレンズ、情報誌に関すること・・・管理係

休館日 = 月曜日(祝祭日の場合は翌日)及び年末年始
 開館時間 = 午前9時～午後10時

交通アクセス

- 地下鉄東山線藤ヶ丘駅から車で5分
- 地下鉄東山線藤ヶ丘駅下車、名鉄バス2番乗り場、長久手郵便局前下車、徒歩8分
- 地下鉄東山線藤ヶ丘駅下車、N-バス[Fルート]文化の家下車すぐ
- 名鉄バスセンターから名鉄バス、長久手車庫行き、西島下車徒歩10分
- 東名高速道路名古屋インターから車で10分



古紙配合率100%再生紙を使用しています
 白色度 %

自主事業一覧

4月 6月
 April June

公演

4月26日(土) 午後3時開演・午後7時開演 風のホール

事業倶楽部事業
 沢則行「KOUSKY」コウスキー(チェコの人形劇メソッド)
 一般=2,500円、フレンズ会員=2,300円(全自由席)

5月11日(日) 午後2時開演 風のホール

ながくて寄席 若手落語の会 其の参
 立川志らく 独演会

前売り 一般=1,000円、フレンズ会員=800円
 当日=1,300円(全自由席)

5月25日(日) 午後2時開演 風のホール

羽ばたきコンサート
 新しい波・2003 ～北欧からの便り～(北欧音楽、バイオリン、ピアノ)
 一般=1,000円、フレンズ会員=900円(全自由席)

6月15日(日) 午後3時開演 森のホール

愛・地球博地域連携プロジェクト事業
 ヴィーナス・カルテット チェコ・ロシアの弦楽四重奏団
 一般=2,500円、学生=2,000円
 フレンズ会員=2,000円(全自由席)

6月29日(日) 午後3時開演 森のホール

長久手オペラ
 ブッチーニ「ボエーム」
 前売り 一般=2,000円、学生=1,500円、フレンズ会員=1,800円
 当日 一般=2,500円、学生=2,000円(全自由席)

企画展

4月26日(土)～5月4日(日) 展示室

長久手町文化の家開館5周年記念事業
 絵画コンクール大賞受賞者5人展 入場無料

映像鑑賞会

午前10時～・午後2時30分～ 光のホール

4月12日(土) ギターを持った渡り鳥 当日=300円
 5月10日(土) 絶唱 当日=300円
 6月14日(土) 男はつらいよ 当日=300円